



さざんか



口谷まつり (ワークプラザ・いきいき宝塚)



安倉フェスタ (さざんかの家・けやきの里)



夕暮れコンサート (めふプラザ)



安倉フェスタ (さざんかの家・けやきの里)

事業所のお祭りいろいろ



夕暮れコンサート (めふプラザ)



口谷まつり (ワークプラザ・いきいき宝塚)

内容

- 理事長より
- 法人の取り組み
- 事業所探訪 (ワークプラザ宝塚)
- 事業所ミニだより
- 後援会会長より
- 後援会定期総会・サマーフェスタ
- 突撃! 隣のグループホーム (安土夢ホーム2)
- 後援会役員研修旅行・先進地バス研修
- 日誌・編集後記

発行 社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会/宝塚さざんか福祉会後援会
 運営事業所 宝塚さざんかの家 宝塚あしたば園 宝塚めふプラザ 宝塚けやきの里 ワークプラザ宝塚
 かしの木工房 こはま いきいき宝塚 障害者就業・生活支援センター (あとむ)
 相談支援センター (だんぼ) 地域生活支援センター
 法人事務局/後援会事務局
 宝塚市安倉西3丁目1番5号 宝塚さざんか福祉会 電話0797-83-6544 FAX0797-83-2510

社会福祉法人制度改革への対応と、親亡きあとの地域生活を支える人材不足の現状へのご理解を

理事長 松井 美弥子

社会福祉法人制度改革に伴い、当法人も定款の改正を行っています。法人の理事・評議員の役割もハードになり、理事は執行機関として現場により精通していること、評議員は見識をもって執行状況の見極めが求められるので、理事会・評議員会とも少数精鋭になっていくと思います。

昨年から公認会計士の指導を受けて、財政基盤の確立への各事業所の意識も高まっております。また、利用者の重度化と高齢化が進む中、利用者支援を確実に行うために各事業所の特性と役割を明確にするために、ビジョン検討会を丁寧に進めておりますので、しばらくお待ち頂きたいと存じます。

グループホームの支援員不足が進んでおります。保護者の高齢化等で土日もホームで過ごされる方が増え365日開設のホームが多くなってきました。通所事業所の職員の応援で何とか切り抜けておりますが、双方の利用者の支援に不備がないようにすること、支援員への負担感も増幅させないような根本的な解決をしていかないとなりません。職員の勤務体制の見直しと障害者支援の現場で働いてみたいと思ったださる人材の確保への更なる努力をしてまいります。皆様も人材確保への良いお知恵とご協力を頂けますと嬉しく存じます。

法人施設が地域自治会と相互応援協定を結びました

常務理事 和田縉市朗

7月21日、宝塚市役所で宝塚市長、市議会議長そして消防長出席のもと、「災害時におけるワークプラザ宝塚・いきいき宝塚と春日自治会との相互応援に関する協定」の調印式が行われました。

この相互応援協定は、宝塚市が策定した地域防災計画の「災害時要援護者の安全環境整備」対策の一環として行われたもので、火災や震災等の災害が発生した場合、自治会等近隣住民の方々が施設利用者の避難誘導に協力したり、また、災害で被災した近隣住民の方々の一時避難所として施設を開放するなど、双方がその組織力を発揮して被害を最小限にとどめることを目的としています。

今回の調印式では、他の3地域の相互応援協定も同時に締結されましたが、実は、当法人ではすでに平成10年に安倉地域で同様の協定を結んでいます。これは阪神淡路大震災の教訓から宝塚市消防本部の後押しで生まれたもので、宝塚さざんかの家、宝塚あしたば園、希望の家、あひる保育園及び福寿荘とメゾン宝塚、県営安倉団地自治会とが協定を結びました。



調印式の様子

以後、安倉地域では、毎年定期的に消火訓練や避難訓練を行っています。が、福祉施設と地域との相互応援協定は当時としては極めて先進的な取り組みで、この後、このような取り組みが全国に広がるきっかけにもなりました。

宝塚さざんか福祉会は、「法人は、地域と共に暮らし、地域と共に活動して地域のコミュニティ発展に寄与します」を法人理念の一つに掲げています。相互応援協定は、まさにこの理念に沿う取り組みで、これからも理念の実現に向けて、地域との共同イベントや地域の環境整備などできるものから取り組んでいきます。

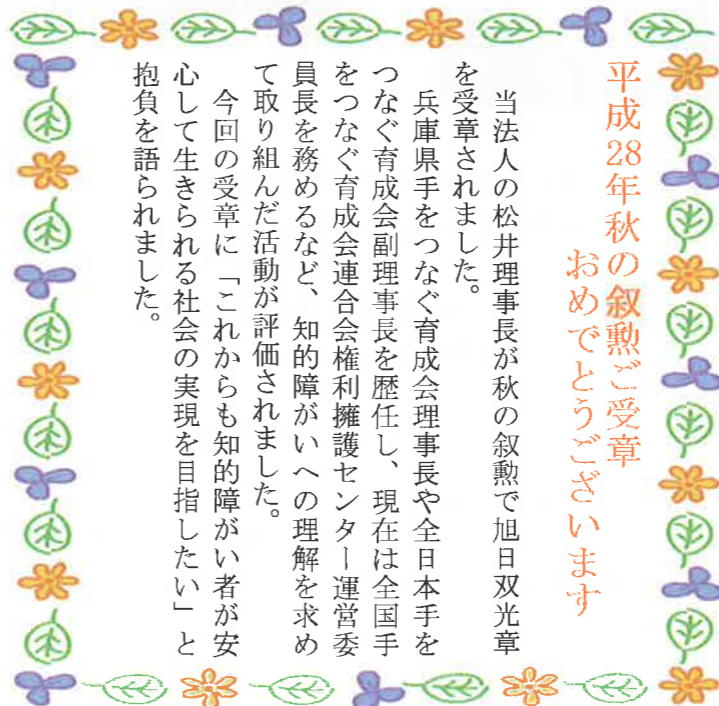


平成28年秋の叙勲ご受章 おめでとございます

当法人の松井理事長が秋の叙勲で旭日双光章を受章されました。

兵庫県手をつなぐ育成会理事長や全日本手をつなぐ育成会副理事長を歴任し、現在は全国委員長を務めるなど、知的障がいへの理解を求めて取り組んだ活動が評価されました。

今回の受章に「これからも知的障がい者が安心して生きられる社会の実現を目指したい」と抱負を語られました。



切にし、さらに深まり広がっているようです。

☆自分で出来ることは自分で！

利用者さんは現在56名（男性34名、女性22名）最近では新卒の方が入り、18歳から65歳と年齢差はありますが平均は33歳と、かなり若いようです。

ワークプラザ宝塚は『仕事（作業）です。』とはつきりうたわれているので、いろいろな場面で作業に対する姿勢などを求めています。就職を目指している方たちはなぜここへ来ているのかという気持ち（自覚）が大事です。みんなにも「山本駅からバスでなく歩いて来よう」と提案し、多くの方が駅から徒歩で通われるようになりました。ワークの送迎バスを使われている方（22名）も駅までは公共の交通機関を使って来られています。そこ（自力通所）に至るまでには親の勇氣、職員の見守りなどが多々あったようです。「親は子どもから、いつかは手や目を離さなければならぬ、子は親から離れなければならぬ」と思っています。ワークはそれが少し早く始まっているのではないかしら」というお話でした。



☆どんな仕事（作業）を？

利用者支援は生活介護事業（40名）、就労移行事業（6名）、就労継続（B型）事業（10名）で、様々なサービスを受けておられます。「仕事は全員同じ」ですが内容が少し異なってきました。



ワークプラザ宝塚

さざんか 事業所探訪

さざんか福祉会には沢山の事業所がありますが、其々の事業内容やその特徴、どのような利用者さんを対象に...、その支援体制は、作業は主に何をしているの、雰囲気は...等を広報部員が訪問し、シリーズで掲載しています。

今回は23年目に入った市内の東端にある「ワークプラザ宝塚」を訪問しました。

所長の上江洲さんに迎えられる、とても気さくに熱意のあるお話を伺いました。

開設時は時代の流れで障がい者に対する考え方（共に生きる）が変わり

始める頃で、市の委託事業として開設されたようです。しかし、住宅地内での開設に当たっては地域住民との関係等、関係者の方々の努力は大変なものだったと思います。地域の方たちとのコミュニケーションを大事に、理解を深めてこられたように感じました。そして、現在も大

す。生活介護の方は生活の基本的なことが身に付くように取り組んでおられます。一日のリズムが出来、集中力がでてくると意欲がわいてきます。健康管理なども自力で出来るように、をめぐらし、薬などの管理も自分で出来るようにと細やかな気遣い（見守りはいりませんが）なども聞かせていただきました。就労移行の方は企業実習などを行い就業意欲及び意識を高めて企業への就労を目標に2年間取り組まれます。現在、伊丹の自動車工場へ3名の方と職員1名が行っています。

2年間の間にその人の力や思いがみえてき、その後は一般就労、就労継続（B型）、生活介護、他の事業所への移動と分かれるようです。就労継続は主に就職した人たちが何らかの事情で退職し、その後就労継続（B型）事業を受けます。就職は難しかったが仕事をやる力はある方たちです。働くことを通して労働の喜びや社会人としての意識を高めておられるようです。27年度は5名の就職者がいたようです。



本人の思いや情報をもとに家族、支援者、関係機関などが本人にとって何が大事で、どういった目標に向かえばよいか支援は固定するのではなく、流動的に考えておられるようです。仕事は内職的なもので、13社と提携していますので途切れることはないということです。みんな同じ作業に携わり、能力に合ったその人の人の仕事を担当されて、頑張っておられるようです。「働かなければお給料はもらえない」

と遅刻、作業態度、身だしなみ、報告が出来る、指示が聞ける・・・10項目を全職員が評価して決めておられ、1年に2回見直されるようです。評価だけでなくこの人にはこんな力をつけてほしいという話まで出て、職員の目(見方)も変わるようです。

☆仕事以外の活動は？



昼食後、「12時30分〜13時まで隣接の「いきいき宝夢」のホールで歌と踊りを毎日しています。8年くらい前から「恵美寿」として活動しています。ステージに立つ経験がなく、消極的だったのですが今では・・・少し抑えてというほどに頑張っています」ということです。8月末の夕暮れコンサートに参加したり、9月10日には西公民館で虹の輪コンサートに出演し津軽三味線(竹田傑と和楽座)、エイサー隊(小林子ども会)と恵美寿(ワークプラザ宝塚)がコラボするという素敵な計画もあるようです。「声がかかったら出かけていきます」との事です。



仕事をしたら楽しさを持つのも良いかと思つて、年末には大掃除の後、焼きそばパーティをしたり、ぜんざいなども作られるそうです。今年暑いので電動かき氷器を買ひ、お盆には60人分を15分で。2回目は自分たちで暖簾までかけて。蜜やアイスクリー



ムを買ってきて、量は少ないのですが分け合つて楽しんでおられるようです。屋外作業から帰った人たちにとっては何よりのご褒美のように思いました。仕事の納期があるのでいつもというわけにはいかないようですが出来そうとなると職員共々声を掛け合つて、チームワークよろしく楽しんでおられるようです。

☆大きな行事としては・・・

「口谷合同祭りがあります。事業所内(ワークプラザ宝塚といきいき宝夢)で地域の方々の協力を得て、ハロウィン仮装パーティを盛大に行っています。ワークプラザ宝塚、いきいき宝夢、自治会が実行委員会を立ち上げ、準備します。今年で3回目、10月7日(金)に予定しています。善意銀行、後援会などから助成金をもらい朝から利用者さんと職員が手づくりで会場準備や飾りつけをします。自治会の方たちが受付を担当して下さったり、保護者たちも仮装して手伝ってくれます。年々派手になっていきます。地域の中学生くらいの子たちも仮装したり、着ぐるみに入ったりして楽しんでくれています。子どもさんたちが大勢参加してもらいたいのので値段はオール100円で販売しています。職員は支援しながら無理なく行っています。祭りの利益でセンサーで点灯する街灯を付けたたり、繁つていた木を伐採し、見通しをよくしたりと地域に還元もしておられるようです。

「親睦の一泊旅行もしています。」今年白浜の方へ行く予定だそうで掲示板にお知らせが出ていました。温泉に入って、おいしいお料理をいただいで、恒例の宴会も楽しめること

○機械関係の部屋へ

自動車部品、研磨材、簡単な機械操作等の細かい部品が分けられ、机上に並べられてあり、各々異なった作業を黙々とされていきました。片隅では大きな機械を操作している方も。ねじの取り付け、部品の組み合わせなど緻密な作業が求められているようでした。各自の力や、向き不向きなどがある中いろいろ細かい配慮がなされているように感じました。



○雑貨品詰め合わせの部屋へ

雑貨品、ダイレクトメールセット、紙袋のひも付け・形成、猫除けグッズ、歯ブラシの詰め合わせ等々。中にはわざと歯ブラシの並びを間違えてみせるお茶目さんもいました。



全体を通して、利用者さんひとり一人の力が発揮できるように個々のニーズに沿う形で作業種を決定することを大切にされているように感じました。

○屋外作業は・・・

訪問した日は残暑の厳しい日でしたが屋外作業に行かれて利用者さんみると聞き大変だなあと感じました。公園、駐車場、高齢者施設、宅地等の清掃、除草、くもの巣払いまでされているようです。本館の裏口近くには作業着等が干してありました。作業後洗濯機で洗濯されるそうです。これも自力でできているとか。反対側には一新された掃除道具のモップ等がきれいに並べられてありました。毎日、一日の作業終了後に全員で掃除をされるそうです。



☆ 楽しみな昼食タイム



何となく利用者さんのそわそわした空気から昼食の時間が迫っているようでした。2階の食堂へお邪魔しました。今日は大きなエビフライの入ったカレーライス、オクラのサラダ、ヨーグルト。厨房の中は委託業者が忙し

しょう。普段の作業場と違った場所での利用者さんと職員の交流は深まるようです。

☆どんなお仕事をされているのでしょうか

施設内を案内していただきました。

先ず、職員室(利用者さんの工夫されたスケジュール表などがいっぱい貼ってある)、男女の更衣室、休憩室、洗濯室(内用と外用2台を使い分け、作業の後の洗濯も自分たちでされているようです)、そして次は仕事をされている部屋

○紙ベース等、箱折りの部屋へ

キャップを被った利用者さんがにこやかに迎えてくださいました。赤と白の紙を受け持ちの部分で済めば次へ送り、流れ作業で仕上がっていました。仕事のチェックやスピードの調整は職員の方が見守っておられるようでした。一から全部仕上げていく人もいるようで離れた机で作業している方もいました。初めての注文とは思われないような手際の良さで進められていました。どこかのコンビニで彼らの折った箱にコー



ヒー缶が入れられて並ぶのでしよう。サンドイッチのパッケージもいっぱいストックしてありました。京都のお菓子屋さんの難しそうな折箱の注文も来ていました。



く働いていました。管理栄養士の方がきちんと見守っておられるようでした。時間が来たら入口で手洗いを済ませた利用者さんが次々と並びはじめ、お盆を運び、自由に席について食事を始められていました。次々と来られてもみんな行儀よく並んで静かに待たれているのには感心しました。食堂の掲示板にはリオオリンピックのピックの選手村でも出たのか？ブラジル料理の写真がありました。その日はどんな顔をしてみなさんいただいたのでしょうか。食堂にいっぱい人が集まりました。頃失礼しました。



開設当初は「バス通所」という地域の私たちの条件だったようですが歳月を経て、理解してもらい、今では「毎日うちの前を通っている人を最近見かけないだけだ？」・・・調べてみたら違う道を通って通所していて、事情を話すと「いつも挨拶をしてくれていたのだからと心配になって」と気にかけて訪ねて下さる方もいるんですよとの所長の言葉が印象に残りました。

地域に根付いている「ワークプラザ宝塚」を感じながら施設を後にしました。

(広報部)

よ だ 所 業 事



地域と楽しむイベントあれこれ

宝塚さざんかの家

「安倉フェスタの取り組みについて」



今回の安倉フェスタは初めての取り組みで、島島自治会、長とご縁もあり、安倉フェスタを開催することが出来た。午前中は団地周辺の清掃活動、抽選券付きのティッシュ配りをし、午後はカラオケ、千本くじなどをし、団地に住んでおられる方々と交流をはかりました。

さざんかの家、けやきの里、団地に住んでおられる方々を合わせ100名程の方が参加をされ、大変盛り上がりました。

利用者さんも清掃活動や茶話会を楽しんでおられたので今後も継続して行っていききたいと思っています。

(松森 竜)

宝塚あしたば園

「祭りあれこれあしたば園」

法人全体のお祭りから、事業所ごとのお祭りになり、地域住民の方々と交流をしたり、顔の見える距離で一緒にいい時間を過ごしたいと考えています。

以前からお世話になっていて、ボランティアの「でえくさんず」、お隣のあひる保育園の子どもさんや安倉地区の方にもお声をかけさせて頂いて、一緒に餅つきができたらいいなと計画中です。

「市販の切り餅も使い勝手がいいけれど、杵つきのおもちって美味しいね！」という言葉を地域の色んな年代の方々と感じながら、あしたば園のことも知って頂ける様な機会になればと考えています。

(山下 知一)



かしの木工房 さはま

今年度から法人全体のお祭り（よいとこカーニバル）を廃止して、各事業所最寄りの地域で交流や貢献活動を展開することにしました。かしの木工房は、これまで地域の活動に参加したことが無いため、これから関係を築きます。

地域との交流や貢献のために、私たちに何が出来るでしょうか。

プランの一つは、小浜宿まつりに参画させていただくことです。これまでSanquilityが販売で参加させていたのですが、今回は企画から参画させていただけよう声掛けしています。もう一つのプランでは、地域の子どもたちのかかわりを持ちたいと思っています。子どもたちの笑顔を大切にすることに貢献したいと考えています。是非実現したいと思っています。

(田畑 敦彦)



宝塚けやきの里

けやきの里では「利用者が楽しめること」と「地域啓発」の両立を図り、さざんかの家と共同開催、島島団地の住民にもご協力いただき、お祭りとして「安倉フェスタ」を実施しました。

午前中は両事業所と力を入れている清掃活動を「地域啓発」として活かし、団地周辺の清掃、午後からは島島団地集会所をお借りし「利用者が楽しめること」としてカラオケ大会、くじ引きを行いました。

利用者だけではなく、地域の方にも「これは嬉しいわ」と好評でした。今後もこの繋がりを大切にして安倉フェスタを盛り上げていきたいと思っています。



(野口 能史)

サザンのオロディー

アピアの商業地に店を開いて5年8ヶ月が経ちました。

店の開店準備をするところから通行人、他の店舗の方々はじめ、お客様に利用者さんの働く姿が見えます。明るい笑顔、元気な挨拶などを目標にして取り組んでいます。

ありのままの利用者さん達を見守り、支えていただいていると実感します。

その他、宝塚商工会、アピア名店会に加盟、アピアで開催される販売促進会やイベントにも参加しています。

後援会、育成会を始め、地域の学校関係、民生委員関係、サロビン、デイサービス、一般企業などに利用者の頑張る姿、法人の自主生産品の情報を発信する役割を担っています。



(木ノ下 美智代)



様子を見ると、やってよかったと嬉しくなります。

口谷秋祭り実行委員会

(ワークプラザ宝塚・いきいき宝塚 鎌倉 卓也)

突撃！隣のグループホーム

第十五回 安土夢ホーム2



10月12日夕刻、安倉南にある『安土夢ホーム2』にお邪魔しました。

ゆったりとした敷地に安土夢ホーム1・2が隣接して建てられています。3年前、グループホーム仕様で建てられた建物を借りておられるので、5LDKの間取りは使い勝手がよく、制度上必要なスプリングクローも完備されています。

美味しい夕食の時間



出迎えて下ったのは、武市支援員。ン？前回の「突撃！隣のグループホーム」で桜ガ丘ホームに伺った時も確か武市支援員だったはず。前回の取材の後、5月にこちらのホームに移られたそうです。

午後5時半、すでに入浴を済まされた油井さんはリビングで、大津さんは自室でくつろいでおられました。船本さんはちょうど入浴中。武市支援員が、時々様子を見たり声掛けをする以外はご自分でされるそうです。

食卓にはおいしそうな夕食が並べられています。今夜のメニューは、鶏肉と野菜の南蛮漬け、豚肉キャベツソテー、三色野菜の酢の物、味噌汁、ゆかりご飯。瀬本調理員による豪華な



夕食の出来上がりです。

就職しておられる川上さんは、帰宅が7時前になるようで、3人が一足先に食卓に着かれました。食事の際には、それぞれ食べる順序やお代わりの仕方にこだわりのあるようですが、武市支援員は皆さんが気持ちよく食事ができるように工夫し、優しく見守っておられました。

6時過ぎ、帰宅途中の川上さんから電話が。ほぼ毎日夕食の献立を確認されるそうです。好きな献立だと足取りも軽くなるのでしょね。

出来るだけ自分で



食後の服薬は、支援員さんが準備を手伝われますが、出来るだけ自分でやってもらいますとの事。服薬だけではなく、何事も本人が助けを求めてこられるまでは支援員さんは「待つ」の姿勢を心がけておられます。

武市支援員が着任された当初は、食後すぐにそれぞれの自室で過ごされることが多かったよ



(広報部)

うですが、最近では8時のテイタイムまでリビングで皆さん揃ってテレビを見ることが増えたそうです。明日は皆さんでカラオケの予定。今からとても楽しみにしておられるそうです。利用者さんも支援員さんとの距離を測りつつ、徐々に慣れていった様子が伺えます。食べることが大好きな油井さん、船本さんは毎週「ザ・テレビジョン」を買ってきて読むのが楽しみ。部屋のラジカセで聞くCDは演歌。川上さんと一緒に、TVの時代劇を見るのも好きなことの一つだそうです。朝早く出勤される川上さん、6時40頃にはホームを出発されます。他の3人は、8時から8時半の間にそれぞれ「けやきの里」「あしたば園安倉南作業所」に向かわれます。

武市支援員は、「まだこのホームの担当になって半年なので、十分に利用者のことを理解できているか不安ですが、言語化できない方の気持ちを汲み取ることができた時、やり取りがうまくかみ合ったときに喜びを感じます」と、利用者の皆さんを暖かく包み込むような優しい笑顔で話して下さいました。



第2回 役員研修 新潟「みんなていきる」 長野「森と木」

平成28年7月26日〜27日

今回は、後援会から3名と法人職員5名の計8名が参加しました。JR宝塚駅に集合し、大阪駅、金沢、新潟(上越妙高駅)へ。上越市では過去最高の雨量となる大雨で、防災メールで避難準備情報が発令される中、レンタカーにて一日の視察研修が始まりました。



西洋料理店「もりたろう」前にて

社会福祉法人「みんなていきる」 24時間緊急相談 あんしんコールセンターを訪ねて

「在宅の生活を支える上で制度の隙間を埋める重要な役割を果たす」という役割のもと設立されたそうです。その具体的な内容を知りたいと今回の訪問になりました。



上越市は人口19万5千人、面積は香川県の約半分と、かなり広いエリアに1ヶ所の「あんしんコールセンター」で、24時間365日、サービス利用実績や障がい者手帳の有無も関係なく、相談を受けておられるそうで

す。担当の方から、これまでの事例を基にお話しを伺いましたが、相談内容は多岐にわたり、緊急度が高く、深刻な内容ばかりでした。そのため緊急のショートステイ利用頻度も高く、障害特性に合わせて個室が用意されていました。スタッフは、たった4人で、ほぼ全日、休日なしで従事されているそうです。

宝塚市で同じような機能を地域拠点として検討する場合のアドバイスとして、①対象を明確に、②利用登録を基本に、③人手を確保し負担が偏らないように、④つなぐ先の確保：等々の実践に基づいた助言をいただきました。

「制度ありき」でなく、「ニーズありき」の発想から生まれるもの

社会福祉法人「森と木」では「施設から地域」という法人のコンセプトが徹底し最初に整備した施設以外は、全て借地、借家等で事業を大きく展開されていました。「大きな施設は地域に溶け込まない」と、街の中で良い場所や環境の地に、福祉事業所とは感じさせない外観や内装の事業所



(お店)を作っていく事で、若い人もここで働きたいと思ってもらえる↓結果的に良いスタッフが集まってくる、とお話されていました。

今回、時間の都合で見学出来なかった、サンドイッチの店「ベジタボーラ」は一日の売り上げが10万円を割ることはなく自慢のお店だそう。各事業所では1店舗5〜7名の利用者が働き、送迎は全て「タクシー送迎」だそう。特別支援学校を卒業された知的障害のある方を

主に対象として、二年間の有期限で「自立サポート森と木」(自立訓練・生活介護)で受け入れ、様々な経験を積む工夫をされています。その後、次のステップ(同法人以外の事業所も含む)に進んでいるそうです。

安心できるみんなの居場所として
* 学齢期の発達障害のある子どもを対象に
放課後デイサービス「もりときピコ」
* 15歳以上の発達障害のある人を対象に
自立訓練と就労移行支援事業「ようこそ森と木ラボ」等々:
他にも、きめ細かな事業所がたくさん用意されています。



各施設の事務は「森と木(本部)」一か所に統合され、退勤する際は全スタッフが本部に寄り各事業所の連絡会もここで行われるので、情報共有や横の繋がりはとてもスムーズだそうです。また、職員の子育てサポートとして託児所があり、幼児が楽しそうに遊んでいました。若いお母さん職員も安心ですね。

職務に精通され、目的意識も持って参加された職員の皆さんの研修レポートを基に、この報告をまとめる事ができました。研修の成果を各事業所で共有し、ぜひ日常業務に反映して頂きたいと願います。過密スケジュールの研修旅行でしたが、参加者の熱い思いを知り、嬉しく、楽しく、美味しく、充実した2日間でした。

(広報部)



先進地バス見学会

平成28年11月29日(火)

11月29日滋賀県にある社会福祉法人わたむきの里福祉会の「わたむきの里」に見学に行ってきました。稲刈りも終わった田んぼが広がる近江米でも有名な日野町に施設はありま

した。『すべての人が生まれた町で育ち・働き・暮し続けられノーマライゼーションのまちづくりを目指します!』を基本理念に、障害の種別は問わず現在120名の方が契約されています。一人ひとりの「働きたい」を応援するために様々な仕事に取り組んでおられました。リサイクル事業では、日野町のエコリサイクルのセンター的役割を果たしています。町民の方が資源ごみを持ち込まれる「エコドーム」は、24時間ドアが開いています。また、土日も開所され就労継続B型の利用者20名が分別作業をされています。新聞・雑誌・空き缶・ペットボトル・古着は勿論のこと、廃油やパソコン・自転車なども回収され建物中いっぱい荷物がありました。古着は東南アジアに、綿生地素材はウエスに、服についているボタンは色別にして販売するなど無駄のないシステムになっていました。厨房事業として職員・利用者への給食調理や地域の独居老人宅への配食サービスもされています。町にとってはヘルパーの数も足りないのを見守りになると賛同を得ています。また後継者のいない農地を貸借し、就労継続支援B型の利用者



9名と職員1名でお米を生産販売しています。今年は30キロ入りが800袋もでき完売されたそうです。地域の困りごとを「地域の人たちが喜んでくれるサービス」に事業転換し、地域や行政と密接な連携を取りながら運営している法人でした。そして、とても若い施設長がグループホーム開設時に上がった地域の反対の声に粘り強く対話を重ねて「絶対ひかない」と腹をくくり対応した経緯を話されました。その時の生き生きとした顔が眩しく感じ見学会でした。

(参加保護者

浅山 みゆき)



日誌

自平成28年5月1日
至平成28年11月30日



6月2日

後援会総会

7月12日

通所バス運営委員会
後援会理事会

26、27日

後援会視察研修(上越市・長野市)
施設と地域自治会との相互応援協定
調印式

29日

いきいき宝夢・ワークプラザ宝塚と
春日自治会
新人職員歓迎会
後援会理事会
人事発令
手をつなぐ育成会生活懇談会
安全運転研修会
後援会バス見学会(滋賀県)

9月13日

30日

10月1日

7日

25日

11月29日

11月29日

後援会バス見学会(滋賀県)

編集後記

この度、広報部に初めて参加させて頂く事になり、今までは読む立場だった私が、読んで頂く立場となり不安で一杯ですが、自分の気持ちを少しでもお伝えする事が出来れば嬉しく思っております。

10月にはグループホーム安土夢2にお邪魔し取材させて頂きました。障がいのある方が地域で生き生きと暮らす場面を間近に見る機会を与えて頂きました。夕食を前にして弾ける笑顔、食後にリビングでくつろぐ姿は微笑ましかったです。

そんな笑顔、又尊い命を奪うというあってはならない痛ましい事件が7月、相模原市の津久井やまゆり園で起きてしまいました。許されない事が現実起こった今、私達が出来た事は何かをもう一度考え、この「さざんか」機関誌を通して障がい者のありのままを、そして何よりもひとり一人が大切な存在なのだと言う事を、一人でも多くの方に理解して頂くお手伝いが出来たらと心から願っています。

まだまだ未熟ではございますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

(広報部 後藤千奈美)



の配食サービスもされています。町にとってはヘルパーの数も足りないのを見守りになると賛同を得ています。また後継者のいない農地を貸借し、就労継続支援B型の利用者